



「標準リハビリテーション医学」

津山 直一 監

上田 敏・大川 嗣雄・明石 謙 編

本書は、リハビリテーション医学の上田版教科書と呼んだほうが、ぴったりするほど、上田先生のリハ医学に対する考えかたに基づいて学問的に体系付けられている。内容は、リハ医学序説、リハ医学の基礎医学、リハ医学の臨床（総論）、リハ医学の臨床（各論）から構成されている。

第1部の序説は、リハ医学を学ぶ者にとって何よりも重要なリハの理念、障害、患者・障害者の主体性の重要性が取り上げられており、本書の類書にみられない特色である。

第2部の基礎医学は、運動学、人間発達学、障害学、治療学から成っており、リハ医学の基礎学として位置付けられている。

障害者が社会参加するには、心身の耐久力、体力の問題はきわめて重要である。体力増進の医学がぜひとも必要ではないかと筆者は感じている。

第3部は、リハ医学の臨床（総論）で、リハ医学診断学、理学療法、作業療法、補装具、言語治療、失行・失認の治療、患者・障害者の心理・リハ看護、ソーシャルワークが網羅されており、それらの領域は他の治療医学

とは異なって、広範囲にわたっており、リハ医学の大きな特質となっている。しかしながら、リハ医学を学ぶ者にとってはきわめて大変なことだろうと思う。PT, OT, ST, MSW, 義肢装具士がいて、それぞれの障害の治療を担当している。これらのセラピストのチーム・リーダーとなるためには、このそれぞれの領域をすべてを修得することが、リハ医に課せられている。

第4部は、リハ医学の臨床（各論）で、リハ・プログラムの立てかたから始まり、10の各種疾患が取り上げられており、リハの対象疾患および障害のはぼすべてが網羅されている。

リハ病院だけで完結するものでなく、退院後の家庭、地域でのリハが重要視されている現在、在宅リハ、地域リハの項目を本書に求めるのは筆者の1人よがりだろうか。

（B 5，頁 350，図 172，写真 186，¥ 5,900，〒 300，

1986年，医学書院 刊）

（東京都立医療技術短期大学

理学療法士 松村 秩）